

## 那覇の観光をもっと良くするための活動報告（令和7年度まとめ）

### 1. 那覇の観光の今（数字でみる現状）

#### ■ 宿泊者数

6,289,271 人（前年比+9.7%）

令和7年の延べ宿泊者数は987万人となり、令和6年の900万人から前年比9.7%増と大幅に伸長した。

この増加は、航空路線の回復、インバウンド需要の拡大、及び受入環境整備の進展が寄与したものと考えられる。

#### ■ 観光消費額

5,495 億円（+26.6%）

観光消費額は4,340億円から5,495億円へと増加し、前年比+26.6%と非常に高い伸びを示した。1人当たり観光消費額は77,636円から87,369円へと12.5%増加した。特に宿泊費（+27.4%）および娯楽費（+33.6%）が大きく伸び、体験型観光の需要拡大が確認された。一方で飲食費の伸びは限定的であり、回遊性向上や商店街連携の強化が課題である。

#### ■ 観光案内所

25,281 人が来所

観光案内所の海外客は空路利用者が中心であり、国際線の回復に伴い来所が増加している。また、クルーズ入港時には来所者が急増し、多言語対応の需要が高まるため、ピーク時の体制強化が必要である。

#### ■ 観光案内所総合満足度

国内観光客

回答者357名のうち、「良い」が58.8%、「やや良い」が39.2%で、約98%が肯定的評価を示している。「悪い」は2.0%にとどまり、全体として高い満足度が確認できる。

海外観光客

回答者225名のうち、「良い」が77.8%、「やや良い」が21.3%で、約99%が肯定的評価を示している。「悪い」は0.9%にとどまり、非常に高い満足度が確認できる。

#### ■ 観光案内所来所目的

国内・外国人ともに、来所目的は

①観光情報収集 ②地図・パンフ入手 ③お土産店情報 が中心。

※外国人はこれに加えて ツアー・定期観光サービスの問い合わせが多い。

#### ■ 観光案内所の課題

休憩・トイレなどの施設面の不足と、Wi-Fi・多言語資料など情報提供環境の不十分さが課題となっている。

## 2. 今年度の主な取り組み

### ■ 誘客（プロモーション）

第74回金沢百万石まつり「盆正月」・金沢市交流都市PRコーナー出展

R7年 6月 6日（金）～ R7年 6月 9日（月）

那覇市ブースは高い注目を集め、観光PR・物販ともに成果が得られた。

特に「沖縄・那覇市」の表記、直行便情報、首里城関連情報へのニーズが明確であり、今後の県外プロモーションにおける重点ポイントとして活用可能である。

### ■ アンケート結果

那覇市PRブース来場者を対象にWEB形式で実施し、78件の回答を得た。回答者の年代は40代が最も多く、次いで30代・50代が続き、居住地は石川県内が約7割を占めた。

沖縄の訪問経験については、1～2回の訪問者が39%、未訪問者が32%であった。1～2回訪問者の情報入手方法は旅行会社およびインターネットが中心であり、3～6回訪問者では旅行会社利用が減少し、市販ガイドブックとインターネットが主流となっていた。

未訪問の理由としては、「移動距離が長い」「旅行代金が高い」が多く挙げられた。訪問者の旅行形態は家族旅行が53%と最多で、宿泊エリア是那覇市内が78%を占めた。滞在中の過ごし方は、首里城見学、テーマパーク、海水浴などのマリンアクティビティが多く、購入した土産品はお菓子類と泡盛が中心であった。

旅行満足度については、「満足」が59%、「まあまあ満足」が11%で、未訪問のため回答不可が27%となった。

### ■ 見えてきた課題

来場者アンケートから、誘客宣伝における主な課題として以下が確認された。

まず、「那覇市」の名称だけでは地理的イメージが伝わりにくく、県外来場者には「沖縄・那覇市」と明示する必要がある。また、小松ー那覇直行便の認知度が低く、移動距離や旅行費用が高いという印象が未訪問理由として多く挙げられた。さらに、首里城に関する質問が多く、最新の復元状況や見学情報を即時に提供できる資料の整備が求められる。加えて、家族旅行が半数を占めることから、家族向けの体験情報の強化も課題として挙げられる。

## 3. その他

令和7年度事業報告 令和7年度決算報告

那覇市観光協会財源確保計画【概要版】

[那覇市観光協会について | NAHANAVI \(ナハナビ\)](#)